

## 東洋ビューティ

# 持続的な成長へ技術継承を推進 海外取引拡大に向けた取り組みも

化粧品・医薬部外品の

EM/ODM大手の東洋ビューティは、5カ年計画の3年目を迎えた20

18年4月期、既存顧客からの受注増加に加え、

新規顧客の獲得が進み、

売上高が前年比14%増の

240億円で好調に推移

した。日本製コスメの需

要拡大が続く中、三重・

上野工場で人員を補強し

ソフト制に変更するな

ど「生産性向上を図れた



増井社長

ことが好業績につながった」と増井勝信社長は語った。生産能力が向上した上野工場では、新たに倉庫を建設して環境整備を進めるという。

120名体制で取り組む研究開発では、前期より生産部門では、19年4月に竣工予定の佐賀工場

りスキンケアとヘアケアの部門を分け、専門性を高めて製剤化技術の向上を推進している。並行して、基礎研究や開発処方

のデータベース化を進めている。「個人に所属しやすい技術やノウハウを企業資産化することで、スピード開発の実現とともに、技術・技能の伝承に取り組む（増井社長）。

「早期に（構成比）1割まで引き上げたい」と述べ、今年アジア開催の展示会に加え、10月にパリで開催される「Cosmeti-c360」にも

初出展し、EU企業との接点拡大につなげる。

「佐賀工場が稼働すれば現在の生産能力の約2

倍になる。今期は工場の垂直立ち上げに向けた準備期間に位置づけ、宇都宮・上野の各工場ですタッフ研修を進めている。

「日本製コスメに対する海外評価の高さは『品質』にある。海外OEMの品質レベルが高まる中、日系OEMへの要求

品質はさらに上がってくるはずである。そうしたグローバルなニーズに対応できるよう、生産技術

と研究開発の両輪で当社の強みにさらに磨きをかけていく」（増井社長）